



# 名古屋市内的におけるエビ・カニ類を対象とした市民参加型調査

名古屋市環境局 なごや生物多様性センター 加藤航大

## はじめに

なごや生物多様性センター（以下、センター）が事務局を務める「なごや生物多様性保全活動協議会」は、名古屋市とその周辺地域に生息・生育する動植物の現状把握や外来生物の防除など、身近な自然の保全を行っている。本協議会が市民・専門家と協働で実施している事業の一つに「なごや生きもの一斉調査」がある。今年度の一斉調査は、**エビ・カニ類**を対象とした。今回特に注目した点は、外来のエビ類（アメリカザリガニ、チュウゴクスジエビ）の分布状況である。アメリカザリガニは名古屋市の広範囲にわたって定着していると考えられるが、ここ10年間程は体系的な分布調査はなされていない。また、チュウゴクスジエビは、2020年に市内4地点で初記録されたため（今井ほか、2020）、定着状況と他の水域への侵入状況を把握する必要がある。

今井正・小笠原長護・齊藤英俊、2020、名古屋市における淡水エビの外来種チュウゴクスジエビの記録。なごやの生物多様性、7：71-75。

## 調査方法

- ◆ 市内の31地点の河川やため池、湿地で実施した（図1）。このうち、市民参加型の本調査（9/29、10/5、10/6）は**22地点**、補足調査（9/12～10/24）は**9地点**であった。
- ◆ 本調査は各日の10～12時に、一般市民319名で実施した。各地点には、事前に講習を受けた協議会員をリーダー・サブリーダーとし、各1名配置した。
- ◆ 各地点に**モンドリ**5基を設置し、採集を行った（図2、3）。誘引にはコイ釣用の練り餌と魚肉ソーセージを使用し、設置後30分以上を経て回収した。
- ◆ 捕獲生物は現地で同定後、その一部を生体のままセンターに搬入し、専門家による再同定の後、液浸標本として保管した。



図2. モンドリの設置



図3. モンドリの引き揚げ

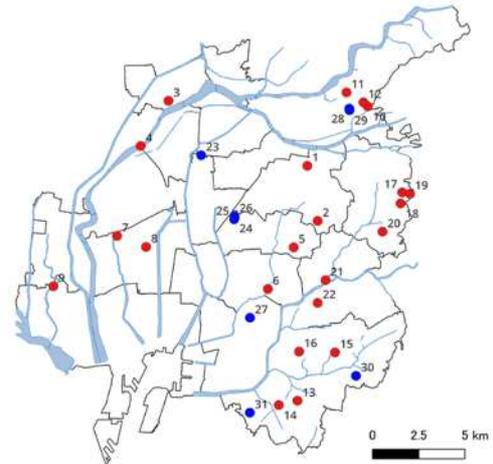


図1. 調査地点

赤丸：本調査 青丸：補足調査

## 調査結果

- ◆ 今回の調査では、23地点で計**7種類**のエビ・カニ類を確認した（表1、図4）。
- ◆ アメリカザリガニは**12地点**（38.7%）で確認され、そのうち10匹以上捕獲された地点は、**6地点**（19.4%）であった。
- ◆ アメリカザリガニの捕獲数が最も多かった地点は**大高緑地 砦池**（No.14）で133匹、次いで**猪高緑地 すり鉢池**（No.18）で123匹、**二ツ池 上池**（No.28）で67匹であった。
- ◆ チュウゴクスジエビは2020年に市内**4地点**（No.3, 25, 26, 27）で確認されたが、今回の調査で捕獲できたのは**鶴舞公園 秋の池**（No.26）の**1地点**のみであった。なお、**呼続公園 曾池**（No.27）では一斉調査後にタモ網で調査したところ、生息が確認された。

表1. 一斉調査で確認されたエビ・カニ類の種類、確認地点数、捕獲総数

	生物名	確認地点数(%)	捕獲総数
1	ミゾレヌマエビ	1(3.2%)	1
2	カワリヌマエビ属の一種	3(9.7%)	66
3	テナガエビ	5(16.1%)	46
4	スジエビ	13(41.9%)	1603*
5	チュウゴクスジエビ	1(3.2%)	28*
6	アメリカザリガニ	12(38.7%)	439
7	モクズガニ	2(6.5%)	2

\*：No.26のスジエビとチュウゴクスジエビが現地で同定できなかったため、持ち帰ったサンプル5匹の比率から捕獲数を推定した。



図4. 一斉調査で確認されたエビ・カニ類7種

## まとめ

- ◆ アメリカザリガニが確認された地点数は想定より少ない**4割以下**であり、その半数の地点で捕獲数が10匹未満であった。捕獲数が少なかった原因として、生息密度が低いなどの理由が考えられるが、詳細は不明である。
- ◆ アメリカザリガニが10匹以上捕獲された地点は、**ため池または湿地**であった。この要因として、No.13, 14, 19では水辺の規模が小さく、コイやカメ類などの高次捕食者が不在もしくは乏しい状況があると考えられた。また、No.15, 18, 28ではここ10年以内に池の改修工事や池干しが実施されており、その際にこれらの捕食者が取り除かれたためと考えられた。
- ◆ チュウゴクスジエビは、**2地点**での確認に留まった。2020年の初確認以降、市内各地への拡散を危惧をしていたが、新規地点が確認できなかったことから、現状その分布は限定的だと考えられる。